



Title	文化的差異と貿易関係について：音楽の貿易データを用いた実証分析
Author(s)	高良, 佑樹
Citation	地域経済経営ネットワーク研究センター年報, 5, 118-120
Issue Date	2016-03-31
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/61432
Type	bulletin (article)
File Information	312Takara.pdf



[Instructions for use](#)

＜第9回研究会＞

文化的差異と貿易関係について —音楽の貿易データを用いた実証分析—

高良 佑樹

1. はじめに

本研究では、文化的な差異の有無が、文化財の貿易量に影響を与えるかどうかについて、分析と考察を行う。

文化的な財の貿易量の多寡について考えた時、一般的に言われている「取引を行う二国間の距離」や「GDPの多寡」などの要因に加えて、「文化的類似性」も重要な役割を果たしているのではないだろうか、より平易に言い換えるならば、「文化的に似ている」国同士であれば「文化的な財の貿易取引が活発化する」傾向があるのではないかと、という点を明らかにすることが本研究の目的である。

本研究では文化財の中で特に「音楽」の貿易取引に注目し、音楽の貿易データを用いて、文化的差異と貿易関係の有無、並びにその量の多寡との関係を分析し、考察を行う。

2. 文化的差異と文化圏

文化的差異について考察を行うに際して重要となってくることは、どの面からみた文化を取り扱おうとしているか、という点と、その差異をどのように設定するか、という点である。今回は「音楽」に分析対象を限定しているため、文化の違いを音楽の文脈から明確に定義することが可能である。差異をどのように設定するかについては、今回は、まず「文化圏」を設定し、「同一文化圏に属している国同士」であれば「文化的に類似している国同士」であると考えることとする。

今回は2種類の文化圏を設定し、それらを用



いて分析を行う。1つ目の文化圏として、Lomax (1959)¹⁾に基づく文化圏の分類を用いる。Lomaxでは各国の持つ音楽の音階や演奏様式、その社会における位置づけなどの観点から世界各国を10の文化圏に分類した。この文化圏を本研究では「音楽文化圏」と呼ぶことにする。これは各国の文化が音楽的な視点から見て類似しているかどうかを表すものである。2つ目の文化圏として、Huntington (1996)²⁾に基づく文化圏の分類を用いる。こちらでは各国を歴史や宗教、社会制度などの観点から11の文化圏に分類したもので、これは文化を大衆の視点から分類したものと本研究ではみなし、「大衆文化圏」と呼ぶことにする。

1) Lomax (1959) では各国を American Indian, African, Australian, Eurasian, Melanesian, Malayan, Modern European, Old European, Polynesian, Pygmoid の10種類に分類、今回はそのうち Pygmoid を除く9の文化圏を用いた。

2) Huntington (1996) では各国を African, Buddhist, Ethiopia, Haiti, Hindu, Islamic, Japan, Latin American, Orthodox, Sinic, Western の11種類に分類。

3. モデルと推定結果

分析には Helpman *et al.* (2008) のグラビティモデルを用いた。このモデルでは市場は独占的競争であるとし、各企業が異なる生産性を持つという仮定の下で「貿易が開始されるかどうか」を推定したのち、その結果を用いて貿易量の推定を行う。このような推定手順を踏まえることで、貿易量 0 の国が存在することによる推定バイアス（標本選択バイアス）の修正をすることが可能となる。

このモデルでは輸出国と輸入国のそれぞれの固定効果を含むため、推定結果には付随パラメータバイアスが生じている可能性がある。今回はその付随パラメータバイアスの修正を貿易開始確率の推定値にのみ行ったところ、推定結果に大きな変化は見られなかったため、バイアスは無視できるほど小さいとみなす^{3),4)}。

音楽の貿易量は 2000 年から 2006 年までの CD の貿易量 (HS8524.32) の平均値を用いる。デー

タは UN Comtrade Database (<http://comtrade.un.org/>) より入手した。説明変数は 2 国間の距離、国境隣接ダミー、言語一致ダミー、植民地関係ダミー、宗教類似度に加えて音楽文化圏一致ダミー (Culture1) と大衆文化圏一致ダミー (Culture2) を用いる。また取引量の推定に際して、除外変数制約から Culture1 を取り除いて推定を行った。分析対象とする国は 188 カ国で、サンプルサイズは 35156 (188×187)、うち貿易関係にあるサンプルは 6390 (約 18%) となっている。

推定結果は表 1、2 の通りである。音楽の貿易が開始されるかについては音楽文化圏の一致、大衆文化圏の一致の両方から有意に正の影響を受けていることがわかる。つまり、文化圏が一致している国同士の方が、そうでない国同士と比べて、貿易が開始されやすくなることがわかる。貿易量の多寡についても同様で、大衆文化圏の一致から有意な正の影響を受けていることがわかる。つまり文化圏が一致している国同士の方が、そうでな

表 1 貿易開始確率の推定結果

	Coef	Std Err	z	p-value
Language	0.49	0.05	10.77	0
Religion	-0.11	0.08	-1.41	0.16
Border	0.1	0.1	0.97	0.33
Distance	-0.7	0.03	-26.54	0
Colony	0.64	0.1	6.33	0
Culture1	0.2	0.04	5.18	0
Culture2	0.31	0.05	6.53	0
# of sample=35156(188 countries)				

表 2 貿易量の推定結果

	Coef	Std Err	t-value	p-value
Language	0.83	0.24	3.44	0
Religion	0.37	0.21	1.75	0.08
Border	1.06	0.22	4.86	0
Distance	-1.12	0.33	-3.41	0
Colony	0.89	0.31	2.88	0
Culture1	-	-	-	-
Culture2	0.53	0.19	2.88	0
$\hat{\alpha}_{ij}$	4.44	0.74	5.96	0
$\hat{\alpha}_{ij}^2$	-0.73	0.24	-3.06	0
$\hat{\alpha}_{ij}^3$	0.03	0.03	1.21	0.23
$\hat{\eta}_{ij}$	6.78	0.8	8.49	0
# of sample=6339				

※ $\hat{\alpha}_{ij}$ と $\hat{\eta}_{ij}$ はバイアスを修正するコントロール項

3) このバイアスはサンプルサイズを大きくすることでその偏りを小さくすることができる。今回は比較的大きな数のサンプルを扱っているため、バイアスが小さくなっていると考えられる。

4) 貿易量の推定結果のバイアス修正については現在取り組んでいる。

い国同士と比べて、音楽の取引が活発化されることがここからわかる。

4. おわりに

今回、文化的な差異の有無が音楽の貿易量に影響を与えるかどうかについて分析を行った。結論として、貿易が開始されるかどうか、またその量はどの程度になるかの両方に関して、文化圏の一致が有意な正の影響をもつ、つまり文化圏の一致が貿易を活発化させるという結論を得た。

今回の分析では「文化圏が一致しているかどうか」のみに着目した。この分析の発展として、文化圏ごとの特徴を分析するためにアジア地域、ヨーロッパ地域などのサブサンプルのデータを用いての分析に現在取り組んでいる。

また、今回の分析結果から、文化的差異の有無は何かしらの影響を貿易に与えることがわかったので、経済モデルとデータを用いて文化圏をクラスタリングし、新たな文化圏を定義することにも取り組んでいる。

参考文献

- Helpman, E., Melitz, M. and Rubinstein, Y. (2008) ,
“Estimating Trade Flows: Trading Partners and
Trading Volumes,” *The Quarterly Journal of
Economics*, Vol. 123 (2) , pp. 441–487.
- Huntington, S.P. (1996) , *The Clash of Civilizations
and The Remaking of the World Order*. Simon &
Schuster Ltd. West Garden Place Kendal Street
London W2 2AQ.
- Lomax, A. (1959) , “Folk Song Style,” *American
Anthropologist*, Vol. 61 (6) , pp. 927–954.
- UN Comtrade Database <http://comtrade.un.org/>